

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産及び負債・資本の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より3,846億円増加し、12兆1,350億円となりました。これは、親会社などで上場株式の含み益減少があったものの、新規投資及び金融市場の混乱に対応した手元流動性確保による現預金の増加や、増資引き受けに伴う関連会社宛投資の増加があったことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末より8,120億円増加し、9兆3,544億円となりました。これは、金融市場の混乱に対応して前広に資金調達を実施したことや、運転資金等の資金需要などに伴い、有利子負債が増加したことによるものです。

また、有利子負債総額から現金及び現金同等物を控除した有利子負債額(ネット)は、前連結会計年度末より4,505億円増加して3兆8,724億円となり、有利子負債額(ネット)を当第3四半期連結会計期間末の資本合計で除した有利子負債倍率(ネット)は1.6倍となりました。

株主資本は、前連結会計年度末より4,071億円減少の2兆4,664億円となりました。これは、四半期純利益の積み上げがあったものの、上場株式の含み益の減少に伴う未実現有価証券評価益の減少や、円高に伴う為替換算調整勘定の悪化などがあったことによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末と比べ5,402億円(72.0%)増加し、1兆2,903億円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において、営業活動により資金は1,556億円増加しました。これは、運転資金負担が増加したものの、資源関連子会社での取引収入が増加したことや、資源関連を中心とした投資先からの配当収入が堅調に推移したことにより、資金が増加したものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において、投資活動により資金は4,634億円減少しました。これは、千代田化工建設及び三菱UFJリースの増資引受による株式追加取得に加え、海外資源関連子会社における原料炭プロジェクトで新規権益を取得したことに伴い、資金が減少したものです。

以上の結果、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの合計であるフリー・キャッシュ・フローは3,078億円の資金減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において、財務活動により資金は9,228億円増加しました。これは、親会社において配当金の支払いがあったものの、新規投資・運転資金負担増加等の資金需要への対応や、金融不安に対応して前広な資金調達を実施したことにより、資金が増加したものです。

3. 業績予想に関する定性的情報

世界的に広がる金融危機の影響及び商品市況の下落や円高の進行などの状況を踏まえ、2008年度の通期見通しを下方修正しております。

<連結>

	今回見直し後	今回見直し前	増減	2007年度(実績)
売上高	23兆円	25兆円	△2兆円	23兆1,030億円
当期純利益	4,200億円	5,200億円	△1,000億円	4,709億円

<単体>

	今回見直し後	今回見直し前	増減	2007年度(実績)
売上高	11.6兆円	11.6兆円	—	10兆8,329億円
当期純利益	1,500億円	2,100億円	△600億円	2,353億円

(注意事項)

本資料における業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

連結子会社であった ARSH, INC. は連結範囲における重要性が低下した為、非連結子会社としております。